

令和 7 年度 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： あったかいごグループホーム神子田マルシェ（2Fしずく）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100659		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム神子田マルシェ（2Fしずく）		
所在地	〒020-0826 岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	令和7年8月8日	評価結果市町村受理日	令和8年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設独自のスローガン「心和楽笑」のもと、心和やかに楽しく笑いのある生活を送れるよう職員一丸となり支援しております。 中庭の畑では野菜を植え、育てる・収穫するを利用者様と共に楽しむ等、職員と協力しながらその人がその人らしい暮らしができるように支援しております。 協力医、訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっており、ご希望があれば看取りも行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

盛岡バイパス南大橋に近い、市民の台所であり、観光客も訪れる神子田朝市の近くに位置し、開設15年を経過する2階建て2ユニットのグループホームである。1階「きらり」は介護度が高く、2階「しずく」は比較的高い自立度の高い利用者が多いという特徴があるが、両ユニットの職員同士の関係性もよく、連携、協力しながら日常の介護サービスに当たっている。トイレ、入浴等、日常の介護において、職員の負担が増えて来ているが、少しでも長く元気に過ごしてもらえるよう終末期まで介護支援を継続する方針が職員に浸透しており、ここ3年間で4人の看取りを実施してきた。両ユニット管理者は、日常の介護支援に追われ外出の機会や地域とのお付き合いが減っていることを課題として挙げており、一人ひとりの心身の状態に合わせながら中庭の家庭菜園のお手伝い等、戸外でのリフレッシュ活動を増やすようにしたいとしている。また、地域との交流も運営推進会議で協議をいただきながら新たな繋がりを創り出したいとしており、職員負担に配慮しつつ前向きに取り組む両管理者の姿勢は、重度の利用者を抱えるグループホームの有り様として評価される。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月29日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			☐	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている（参考項目：11,12）	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている（参考項目：30,31）	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている（参考項目：28）	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

【評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「心と笑」の理念を職員全員が理解し、共有出来ており、理念を意識したケアの実践を心掛けている。	開設当初からのホームのスローガンである「心と笑」をもとに、利用者同士や利用者と職員が共に和み、寄り添いながら日々を送ってきた。加齢とともに利用者の介護度が高くなり、特に1階の「きらり」は介護度4以上が6人おり、職員の負担が大きくなってきているが、終末期も含め心とやかに楽しく笑顔で過ごしてもらえよう、一人ひとりのケアプランにスローガンの精神を反映させながら介護サービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流はほぼ無いが、運営推進会議には町内会の方や民生委員の方にも参加いただいており、情報の交換・共有を行っている。	地域との交流は、介護度の高い利用者が多く、施設内での介護支援が中心の現状になっており、地域との交流は、利用者の心身の体調等を考慮し、積極的には取り組んでいない。運営推進会議のメンバーである町内会副会長さんから町内会の行事案内をもらうこともあるが、参加できていない。毎年秋祭りの山車がホームに来てくれており、今年も楽しませてもらった。ホームは地域に広く知られており、両ユニット管理者は運営推進会議で意見、提案をいただきながら、利用者の心身の状況に合わせた地域との交流を工夫していきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議以外での地域との繋がりは薄く、多くの地域住民に対しての認知症への理解や支援の方法などの情報発信は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では事業所の現状報告や活動報告を行うとともに、会議に参加いただいている地域の方々から意見や助言をいただいております。それを職員会議等を通じて各職員と共有することにより、より良いサービスが提供出来るように努めている。	メンバーの町内会副会長や民生委員からは、災害発生時の避難場所や避難生活の情報を、また、毎回出席いただいている地域の交番からは、防犯対策や最近のクマ出没情報をもらっている。家族には両ユニットから持ち回りで家族に出席をお願いしているが、なかなか都合がつかず、欠席が多くなっている。地域との交流が途絶えがちで、委員の助言を得ながら具体的に地域と繋がる活動を上げたいとしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査や事故報告等必要時には連絡を取り合っている。また、運営推進会議に参加いただいている地域包括支援センターの方にも事業所の現状等について相談させていただいている。	市の担当課とは電話やメールによる連絡が多い。運営推進会議に担当課からの出席はない。地域包括センターを通じて担当課と繋がり、制度面での運用手続き、問合せ等は円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、3か月に1回委員会を開催している。また、外部研修や内部研修を通じて、全職員が身体拘束について正しく理解し、それに基づいたケアを実践できるよう努めている。尚、玄関の施錠は夜間帯のみ行っている。	原則として身体拘束や行動制限を行わないことを指針として定めている。両ユニット管理者と職員1名で構成する「身体拘束適正化委員会」において、ベッド柵設置1名、ベッドセンサー設置の「きりり」6名、「しずく」2名の利用者について、使用状況の経過、解除に向けた検討等を行っている。また、利用者の人格を尊重するケアのあり方や研修の企画、実施について話し合いを行っている。外に出たい利用者が数名おり、玄関にセンサーや鈴を設置するとともに、外に出る気配がある時は、一緒に一回りするなどの対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を3か月に1回開催している。また、虐待防止に関する外部研修にも職員が出来る限り参加出来るよう体制を整えており、外部研修参加者による内部研修も定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見人制度を利用されている利用者様があり、管理者以外の職員も後見人と連絡をとる機会があるため、権利擁護に関しての知識はあるが、深い理解までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前にご本人様やご家族様の意向や、不安な事、疑問点について伺い、しっかりとご納得いただいた上でご利用いただけるよう十分な説明を行っている。また、改定時には書面及び口頭にて説明を行い、ご理解いただけるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際や必要に応じてご連絡させていただいた際には、出来る限りご家族様とのコミュニケーションを図り、ご意見・ご要望の聞き取りに努めており、日々の施設運営に活かしている。	遠方の2家族は半年に1回、市内の家族は月1回は面会に来所する。そうした際に意見や希望を聴取している。ホームの運営に関する意見、要望は特に出していない。日常生活のスナップ写真を編集した「あったかいご神子田マルシェ新聞」や利用者個々の歩行、入浴、排せつ、食事、健康状態、余暇等をまとめた「ご様子シート」をそれぞれの家族に毎月送付し、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議の際や定期的な面談の際には職員が自由に意見や提案を行えるよう十分な時間を設け、その場で出た意見や提案は可能な限り反映できるよう努めている。	両ユニットとも、職員会議で活発に意見交換がなされ、業務の改善やシフト交換等、ホーム運営について、ユニットの枠を超えて連携、協力する体制ができている。ユニット管理者は、人事考課制度の個人面談を10月と3月に行っており、その際、職員から実務を通じた気付きや提案が出されることもある。法人幹部も毎月来所し、ホーム運営の状況や課題を確認、把握してくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課・面談にて評価し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。また、評価を賞与に反映している。法人内でキャリアアップ研修を行い、契約職員を正規職員に登用している。資格取得支援制度があり、職員の資格取得をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人事考課や面談にて職員一人ひとりの力量の把握に努めるとともに、必要な介護技術や知識を身に付けられるよう、外部研修や内部研修に参加出来る体制づくりに努めている。また、研修にて得た知識や技術を活かせるよう、日々の業務内において助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	夏祭りなどの行事の際に法人内の他事業所の職員にも参加してもらうなど、事業所同士の連携を強められるような取り組みを行っている。また、外部研修等で同業者との交流や情報交換を行うことにより、自施設のサービスの質を向上させることが出来るよう努めている。		

事業所名： あったかいごグループホーム神子田マルシェ（2Fしずく）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心してサービスの利用を開始していただけるよう、ご本人様の意向を伺う機会を十分に設けるとともに、不安を解消出来るよう、気持ちに寄り添いながら傾聴を行うなど、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	安心してサービスの利用を開始していただけるよう、ご家族様の意向を伺う機会を十分に設けるとともに、不安を解消出来るよう、気持ちに寄り添いながら傾聴を行うなど、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時必要なサービスを提供出来るように、訪問診療や訪問看護等の医療機関との連携を図るなど環境の整備に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立度の高い方、自身でコミュニケーションが図れる方同士での関係性は築けている。自立度の低い方は困難であるため、職員とのコミュニケーションが主となっている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	直接的な面会だけではなくご家族様のご希望に応じてリモート面会も行っている。面会の際には、ご本人様の直近のご様子をお伝えしており、なかなか面会に来られないご家族様にも、「ご様子シート」をお送りしご本人様の近況をお伝えする等、共に支える関係作りに努めている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の3分の1程はご家族様とともに馴染みのある場所に外出されたり、定期的にご友人が訪ねて来られ交流を楽しまれる等の機会があるが、その他のご利用者様は施設外への外出の機会は行事以外ではほぼ無く、他の利用者様や職員、ご家族様以外との交流の機会もほぼ無い。	着物の着付けの先生や教員だった利用者のもとに教え子が時折訪ねてくれている。古い友人が年一度必ず会いに来てくれる利用者もいる。また、家族とドライブに行き、昔馴染みの人と会ってくる人もいる。夏まつり、敬老会、クリスマス会等、両ユニット合同の行事も多く、交流を通じて1階と2階で馴染みの関係が生まれている。定期訪問の看護師、理容師、マッサージ師も入居後の新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士が関わり合って生活できるよう、一緒にレクリエーション活動を行ったり、利用者様同士が協力して家事を行う機会を設けるようにしている。また利用者様同士でトラブルにならないように、職員が間に入り利用者様同士が良好な関係を築けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の業務の中での傾聴を心掛け、ご本人様の希望の把握に努めている。また、対応可能な場合はご本人様の希望や意向に沿ったサービスを提供出来るよう努めている。明確な意向の把握が難しい場合は本人本位に検討している。	自分の思いや希望を意思表示できる利用者は、1階「きらり」が3、4人、2階「しずく」が6人程度になっている。午前のお茶や3時のおやつの時間での会話等を通じて暮らし方の希望等を確認している。思いや希望を示さない人には、選択肢によりやりたいことを選んでもらうようにしている。花植え、絵画、習字等、本人が趣味としてきたことを把握し、取り組むことを勧めながら、張りのある生活になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前のアセスメントやフェイスシート等の資料から得られる情報を職員全員で共有するとともに、入居後の業務内においてもご本人様やご家族様にこれまでの生活についての話を出来るだけ細かく伺い、経過の把握に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の業務で使用しているタブレットや情報共有ノート等の記録物、また職員同士の申し送りを通じて現状の把握に努めるとともに、不調や変化が無いかわり観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様の想いや希望をこまめに聞き取り、担当の職員を中心に職員会議の場などで意見を出し合い、計画の検討及び見直しに反映させている。	ユニット毎の計画作成担当者が、本人、家族から希望、要望、困っていることなどの聞き取りを行うとともに、身体動作、生活機能の確認を行い、当初のケアプランを作成している。3ヵ月毎に居室担当者が作成する「モニタリングシート」をもとに職員全員でカンファレンスを行い、ケアプランの評価、見直しを行っている。その際には、適宜、家族の要望の再確認を行うとともに、訪問診療の医師や訪問看護師の意見を活かし、より現状に合うプランになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の業務の中での気づきや提案等は情報共有ノートに残し、申し送りの際や職員会議の場で意見交換を行い、それをもとにケアの改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々のご本人様の状態やご家族様の希望に合わせて出来る限りの対応・支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で行われるお祭り等の行事に参加することにより、地域との繋がりや相互協力体制の構築に努めているが、支援としては不十分。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している。	協力医療機関による訪問診療の他、ご本人様と ご家族様の希望やその時々状態に合わせ、そ の時必要な治療が受けられるように柔軟に対応 している。	入居にあたり、家族と話し合い、了解を得た場合 は、訪問診療受診に変更し、家族負担の軽減にな っている。歯科の検診、治療も同様となっている。 訪問医の指導で、外科、皮膚科、精神内科等 の特定診療を外来で受診する場合は、家族同伴 を原則としているが、職員が付添うことも多い。 週1回訪問看護ステーションの看護師による指 導、助言を得ており、24時間対応の契約もしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している。	訪問看護と連携し、必要に応じて都度相談を行 い処置等の指示を受けている。また、週に一度 の定期訪問の他、急変時にも24時間対応で適 切な処置が受けられるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関には都度相談を行っており、ご利用 者様が入院した際には、ご家族様や病院関係 者と連携しこまめな情報交換を行うとともに、退 院後に再び安心して生活していただけるよう努め ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のケアに関しては入居時からご家族様へ 看取りを含めた施設としての方針の説明を行っ ており、ご家族様や各協力医療機関と連携し、施 設として出来る限りの対応を行っている。	利用開始時に、重度化には可能な限り対応する こと、終末期も希望により最後まで対応すること を本人、家族に説明しており、終末期が近づいた 際に再度話し合いを行い、ホームで過ごすことを 希望する場合は、同意を得たうえで看取りに入る こととしている。訪問診療医、訪問看護師との医 療連携体制も確立している。終末期に向けた職員 の意識は高く、看取りに積極的に対応しており、 23年からここ3年間で4人の看取りを実施した。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを各ユニット内に掲示しており、職員が落ち着いて対応出来るよう職員会議の際など、定期的に確認の機会を設けており、それに関連する研修も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時における地域住民との協力体制づくりが課題となっていたが、あまり進んでいない。避難の方法については、定期的な避難訓練や研修を通じ理解を深めるとともに実践出来るよう取り組んでいる。	定例の火災避難訓練を夏と冬に実施しており、1回は夜間想定訓練とし、泊りの職員からの電話連絡による非常召集のシミュレーションも行っている。また、非常階段を利用した避難も実施しているが、特に夜間における2階からの車椅子利用者(現在3名)の避難方法や災害時の地域との協力関係の確立が課題になっている。非常食は2、3日分用意しているが、法人が市内で運営するサ高住施設に大きな保管倉庫があり、市内の各施設分が備蓄されている。	地域は北上川堤防より低い地域にあり、「洪水浸水想定区域」となっており、避難所がやや遠く、移動に時間がかかり、また、介護の面から環境的に難しいこともあり、警戒レベル3以上の発令で即避難するか、状況によっては1階から2階への垂直避難にするか、消防署等の指導のもと、避難の判断基準や目安を明確にしておくことが望まれます。また、運営推進会議で災害時の地域の協力・連携について議題として話し合いを進めることも求められるところです。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	権利擁護に関係する外部研修には積極的に職員を派遣し理解を深めてもらうとともに、研修にて得た知識や経験を内部研修の場で共有し、職員一人ひとりの意識の向上に努めている。	想像力を働かせながら本人の気持ちを受容し、本人がやって欲しくないことは無理強いしないことを職員間で共有している。権利擁護の外部研修に積極的に職員を派遣し、報告研修を行いながら職員の言動が利用者一人ひとりの誇りや尊厳を傷つけることのないよう、また居室等においてプライバシーを侵害することのないよう配慮しながら支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	極力自由に選択や決定が行えるような対応を心掛けており、自己表現が困難なご利用者様でも、表情等から意向を汲み取り対応できるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりのその日の身体的・精神的状況に応じて、臨機応変な対応を行い、無理強いすることがないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身で衣類を選択出来ない方には職員が付き添い、選択しやすいように提案する等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的に食事のメニューは職員が決めて提供しているが、季節感を意識するとともに都度ご利用様が食べたいものの聞き取りを行いメニューに反映させている。食後の片付けや食器拭き等は無理のない範囲で出来る方にお手伝いいただいている。	朝食、夕食は外部委託による配食で対応しており、1ヵ月分のメニューにより週3回配達される。ご飯と味噌汁は職員が用意している。昼食は2週間分のメニューをもとに週2回の買い出しにより、ユニット毎に日勤の職員が調理している。誕生会等の行事食は昼食を工夫して楽しんでもらっている。食事の全介助を要する人が1階に3人、2階に2人おり、一部介助の人も合わせ、職員は介助対応と一緒に食事は摂れない状況にある。2階6人、1階2人が食器拭きやテーブル拭きを手伝ってくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は日々記録に残しており、摂取状況が良くない方には医師やご家族様と相談し、ご本人様の好きなものや補助食品の提供を行っている。また、一人ひとりの身体状況に合わせ、食べやすい食事形態での提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご利用者様それぞれの残存能力に合わせた支援を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄があった際に都度記録を残しており、排泄の時間的なリズムやパターン、習慣の把握に努めている。また、それらのデータをもとに声掛けやトイレ誘導を行い、パットやオムツの使用を減らす努力を行っている。	全介助も含め介助の必要な利用者が多く、職員の負担が大きくなってきているが、排泄パターンをもとに可能な限りトイレでの排泄を支援している。布パンツの人も両ユニットで数名いる。夜間は声がけでトイレに立つ人とパット交換の人が半々になっている。自立者でも失禁や失敗をすることがあり、不安を持つことのないよう配慮しながら対応している。リハビリパンツのパット使用を少しでも減らすよう一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防の為、ラジオ体操やリズム体操、ストレッチ等の運動を毎日行っている。また、食事に関しても便通に効果的なものを提供するように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	その日の気分や体調に合わせ、状況によっては入浴日や入浴時間を変更する等、出来る限り柔軟に対応するよう心掛けている。	入浴は週2、3回、午前中が多い。車いす使用や全介助が必要で浴槽に入ることが難しい1階6人、2階3人はシャワー浴になっている。殆どの方が何らかのお手伝いが必要で、見守り支援のみ的人はいない。日によって入浴を拒否する人が両ユニットで3人程いるが、時間をずらしたり、日を変えたり、本人の気持ちを大切にしながら対応している。入浴剤や菖蒲湯などで気分を変えながら入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自立度の高い方は自身のペースで仮眠等の休息をとっている。身体的な介助が必要な方も職員がその時々状態をみた上で必要に応じた休息をとっていただくようにしている。また、夜間に関しても安心して休んでいただけるよう、居室内の環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬している薬の情報は全職員がいつでもすぐに確認できるようにファイリングしており、変更があった場合には申し送りや情報共有ノートで用法・用量・効果等の情報の周知徹底を図っている。また、誤薬等の事故が起きないように、4重のチェック体制をとっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様一人ひとりの好きな事や出来る事の把握に努め、楽しみや生きがいを持って日々意欲的に生活していただけるように、職員とともに行う家事やレクリエーション活動、創作活動等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族様と外出をされるご利用者様も一部いるが、その他の方々は近所での散歩や行事としての外出レク以外では戸外に出かける事はほぼ無く、ご本人の希望に合わせた外出は出来ていない。	近隣の散歩、2、3人ずつの小グループによる市内の桜や紅葉の見物、利用者によっては家族に誘われてのドライブが主な外出となっており、両ユニットとも外出の機会が少ないと自己評価している。介護度の高い人も、伝統の家庭菜園のお手伝いや見回りなど、本人の状態に合わせてできるだけ外の空気を吸ってリフレッシュしてもらえよう外出支援を検討したいとしている。	利用者にとって、施設内での生活のみでは刺激が少なく、ストレスがたまることが懸念され、職員体制上、対応が難しい面もあるようですが、介護度に合わせ戸外に出る方法を工夫し、短時間でも外出の機会を増やすよう取り組まれることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在お金を所持している利用者はいないが、希望があれば状況に応じた対応が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	タブレット端末を使い、オンライン面会をするご利用者様もあり、タブレット操作など都度支援している。その他のご利用者様に関しても希望や必要に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースのホールにはご利用者様の創作物や職員との共同作品、季節に合わせた装飾品を展示する等、季節感を意識したフロア作りに努めている。	両ユニットとも窓が広く、日当たりもよく、明るいいびんぐ・ホールでバリアフリー仕様になっており、エアコン3台、空気清浄機により冷暖房管理を行っている。利用者は、大きめなソファや介助の必要度により用意された大小の食卓の指定席でくつろいでいる。職員が中心になり、利用者にも参加してもらって制作した季節毎の写真、絵、折り紙等が飾られている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自立度の高いご利用者様は、ホールの自席にてテレビを観たり、新聞や雑誌を読んだり、ご利用者様同士で談笑されたり、ソファでうたた寝されたりとご自身の意思で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り希望に沿った居室になるように、都度ご本人様やご家族様から聞き取りを行う等、過ごしやすい、安心できる空間づくりに努めている。	リビングホールを取り巻くように居室が配置されている。電動ベッド、洗面所、クローゼット、エアコンが配備され、ベッドは思い思いの位置に置かれている。持ち込みの小物等を並べ、自分好みの部屋づくりを行っている。仏壇を置いている人もいる。夏物、冬物の衣類は家族の協力で入れ替えている。掃除ができる人には、マイルームの意識を持てるよう、職員の声かけで一緒に部屋の掃除をしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除や食後の食器拭き等ご自身で、もしくは職員とともに出来る事を安全に行っていただけるような環境づくりに努めている。		